

昭和館報

平成23年度

口 絵		
ごあいさつ	1	
フロア構成	2	
年間主要行事	3	
平成23年度事業概要		
Ⅰ 展示事業		
1 常設展示	4	
(1) 常設展示の概要	4	
(2) 展示資料の入れ替え	4	
2 巡回特別企画展の開催	4	
(1) 第19回巡回特別企画展	5	
「語り伝えたい戦中・戦後の暮らし」		
(2) 第20回巡回特別企画展	5	
「語り伝えたい戦中・戦後の暮らし」		
3 貸出キット	5	
4 実物資料の収集と保存	6	
(1) 実物資料の収集	6	
(2) 実物資料の保存と補修	7	
Ⅱ 図書映像資料等閲覧事業	8	
1 図書文献関係	8	
(1) 運用管理	8	
① 閲覧室及び書庫の管理	8	
② レファレンス・サービス (参考調査業務)	8	
③ 利用ガイドの発行と 資料目録の作成	8	
④ 展示関連図書の公開と 参考図書リストの配布、 読書案内	9	
⑤ ホームページ	9	
⑥ 蔵書点検	9	
⑦ 利用状況	10	
(2) データ管理	11	
① 収蔵図書のデータ管理	11	
② 目次データ入力	11	
(3) 保存管理	11	
(4) 業務研修	12	
2 映像・音響関係	12	
3 ニュースシアター	12	
4 収蔵資料	13	
(1) 図書資料の収蔵状況	13	
(2) 映像・音響資料の収蔵状況	14	
Ⅲ 関連情報提供事業		
1 運用管理	15	
(1) システム運用管理	15	
(2) データベース運用管理	16	
(3) ホームページ運用管理	16	
2 オーラルヒストリーの制作	17	
3 海外資料調査の実施	17	
Ⅳ 啓発広報等事業		
1 広報活動	18	
(1) 広報資料の作成及び発送	18	
(2) 広報資料の掲示及び掲載	18	
(3) 子ども霞ヶ関見学デー	18	
(4) 第10回昭和館見学作文コンクール	19	
(5) 第4回昭和館高校生ポスター コンクール	19	
2 『昭和の暮らし研究』の刊行	19	
3 展示資料の貸出	20	
4 昭和館運営有識者会議の開催	21	
5 昭和館運営専門委員会の開催	21	
6 インターシップ	21	
7 小・中学生用展示案内DVD、 ビデオの配布	22	
Ⅴ 特別企画展等の開催及び概要		
1 「戦後復興までの道のり～配給制度と 人々の暮らし～」	23	
2 「昭和の紙芝居～戦中・戦後の娯楽と 教育～」	24	
3 「昭和の日」記念イベントの開催	26	
4 石川光陽写真展	26	
5 「写真にみる50年前の日本～よみ がえる昭和の情景～」	27	
6 「絵はがきと写真にみる桜～東京の桜 の名所～」	27	
7 紙芝居定期上演会	28	
8 資料公開コーナー	28	
参 考		
1 平成23年度利用者実績	29	
2 平成23年度常設展示室入場者数	29	
3 来館団体御芳名	30	
4 第10回昭和館見学作文コンクール 厚生労働大臣賞受賞作品	31	
5 第4回昭和館高校生ポスター コンクール入賞作品	32	
6 施設概要	33	
7 平成23年度寄贈者御芳名	35	

口 絵
外観写真





7階 常設展示室「銃後の備えと空襲」



6階 常設展示室「移りゆく世相」



5階 映像・音響室



4階 図書室



1階 昭和館懐かしのニュースシアター



紙芝居定期上演会
(毎月第4日曜日)



特別企画展
「戦後復興までの道のり—配給制度と人々の暮らし—」
(平成23年7月23日～8月28日)



特別企画展
「昭和の紙芝居～戦中・戦後の娯楽と教育～」
(平成24年3月17日～5月13日)



巡回特別企画展「語り伝えたい戦中・戦後の暮らし」(愛媛展)
(平成23年10月8日～10月16日 松山市総合コミュニティセンター)



巡回特別企画展「語り伝えたい戦中・戦後の暮らし」(山口展)
(平成23年10月22日～10月30日 山口市市民会館)

ご あ い さ つ



昭和館では、戦没者遺族の援護施策の一環として、国民が経験した戦中・戦後（昭和10年頃から昭和30年頃まで）の生活に係る歴史的資料・情報を収集、保存、展示して、国民生活上の労苦を後世代の人々に伝える国立の施設です。平成11年に設立以降、入館者総数も320万人（平成23年度末現在）を超えるに至りました。これも、ひとえに関係各位の御支援・御協力の賜物であり、心より御礼申し上げます。ここに、平成23年度の活動状況を取りまとめましたので御高覧いただければ幸いです。

主な事業として、常設展示室、映像音響室、図書室、昭和館懐かしのニュースシアターにより、必要な情報提供等を行ったほか、夏と春の特別企画展、地方での巡回特別企画展、2階ひろばでの写真展、紙芝居の定期上演会、子供霞ヶ関見学デー、小・中学生作文コンクール、高校生ポスターコンクール、紀要「昭和のくらし研究」発刊、オーラルヒストリー（体験証言）制作、貸し出しキッドの充実などに取り組んで参りました。

また、昨年10月には「昭和館ホームページ」のリニューアルを行い、ホームページから公開図書の目次（ことば）検索や当館所蔵のSPレコードの視聴ができるなどの充実を図りました。

なお、「強制抑留の実態調査等に関する基本的な方針」（平成23年8月閣議決定）に盛り込まれた「戦中・戦後の国民生活上の労苦に関する資料の収集・展示を行う昭和館等の施設間の適正な連携を図る。」に基づき関係施設連絡会議等を平成24年度から開催することとなりました。

終わりに、今後とも後世代、特に若い世代に戦中・戦後の労苦を継承していくため、各種資料の収集充実に努め、様々な観点からの企画展の開催と種々な情報提供等が出来るよう、魅力ある運営に励んで参りますので、一層の御支援、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年10月

昭和館
館長 花輪隆昭

フロア構成

常設展示室（入口）

7階

常設展示室（出口）

6階

映像・音響室

5階

図書室

4階

研修室・会議室

3階

広場

2階

受付・総合案内・ニュースシアター

1階

資料収蔵室

地下1階

設備管理室

地下2階

年間主要行事

平成23年 (平成22年) 12月7日～7月18日	石川光陽写真展を開催 「警視庁カメラマンが撮った昭和モダンの情景」 (旧新橋停車場鉄道歴史展示室にて)
3月19日～5月15日	特別企画展を開催 「ポスターに見る戦中・戦後」
3月19日～4月21日	常設展示室の復元工事を実施 (休室)
4月22日	常設展示室が再開
4月23日～5月6日	「昭和の日」記念イベントを開催
4月24日～	紙芝居定期上演会(毎月第4日曜日に開催)
6月7日	第10回昭和館運営有識者会議を開催
6月16日	平成23年度第1回昭和館運営専門委員会を開催
6月27日～6月29日	常設展示室の資料交換工事 (休室)
7月23日～8月28日	特別企画展を開催 「戦後復興までの道のり～配給制度と人々の暮らし～」
10月8日～10月16日	巡回特別企画展を開催 (愛媛県にて) 「語り伝えたい戦中・戦後の暮らし」
10月22日～10月30日	巡回特別企画展を開催 (山口県にて) 「語り伝えたい戦中・戦後の暮らし」
11月12日～ 24年 1月22日	写真展を開催 「写真にみる50年前の日本～よみがえる昭和の情景～」
平成24年 1月28日～1月30日	常設展示室の資料交換を実施 (休室)
2月23日	平成23年度第2回昭和館運営専門委員会を開催
3月1日～3月14日	映像・音響室の資料整理を実施 (休室)
3月1日～3月14日	図書室の資料整理を実施 (休室)
3月1日	紀要『昭和のくらし研究』(第10号)を刊行
3月6日	第11回昭和館運営有識者会議を開催
3月17日～4月15日	写真展を開催「絵はがきと写真にみる桜～東京の桜の名所～」
3月17日～5月13日	特別企画展を開催「昭和の紙芝居～戦中・戦後の娯楽と教育～」
3月26日～3月29日	常設展示室の耐震工事 (休室)

平成23年度事業概要

I 展示事業

展示事業では、戦中・戦後の国民生活上の労苦を伝える実物資料の常設展示を行うとともに、関連する資料の収集、保存、管理を行っている。

また、特別企画展や巡回特別企画展等の事業を開催した。

(特別企画展等の内容は別項Vに掲載)

1 常設展示

(1) 常設展示の概要

7階及び6階の常設展示室においては、戦没者遺族をはじめとする多くの国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世代に伝えるための展示を行っている。

7階では、戦争が激しくなる少し前の昭和10年(1935)頃から、昭和20年(1945)8月15日までの戦中の暮らしを、6階では終戦から『経済白書』に「もはや戦後ではない」と記された昭和30年(1955)頃までの戦後の暮らしを、それぞれ多くの実物資料とともに写真・映像資料、図解資料等を併せて展示し紹介している。

(2) 展示資料の入れ替え

長期展示による資料の劣化を避け、また、できるだけ多くの方々からの寄贈資料を紹介するため例年2回、1月と6月に展示資料の入れ替えを行っている。平成23年度は6月27日(月)から29日(水)までの3日間と、1月28日(土)から30日(月)までの3日間、常設展示室を休室して資料交換と清掃作業を行った。

2 巡回特別企画展の開催

昭和館では、常設展示のような企画展を各地でも開催してほしいという要望があり、平成13年度から各地で年2回の巡回特別企画展を開催している。なお、平成23年度は、次頁の通り実施した。

(1) 第19回巡回特別企画展「語り伝えたい戦中・戦後の暮らし」(愛媛展)

開催期間	平成23年10月8日(土)～10月16日(日)
会場	松山市総合コミュニティセンター 企画展示ホール
協賛	愛媛県遺族会
後援	愛媛県 愛媛県教育委員会 松山市 松山市教育委員会 愛媛新聞社 NHK松山放送局 南海放送 テレビ愛媛 あいテレビ 愛媛朝日テレビ 愛媛CATV FM愛媛
内容	愛媛県関連の資料を中心に、戦中・戦後の厳しい時代を生き抜いた人々が綴った手記や、その姿を記録した写真などを通し、当時の世相や苦難の多かった暮らしを紹介した。
来場者数	4,862人(約540人/1日)

(2) 第20回巡回特別企画展「語り伝えたい戦中・戦後の暮らし」(山口展)

開催期間	平成23年10月22日(土)～10月30日(日)
会場	山口市民会館 小ホール・展示ホール
協賛	山口県遺族連盟
後援	山口県 山口県教育委員会 山口市 山口市教育委員会 山口新聞社 朝日新聞社 毎日新聞山口支局 読売新聞山口総局 日本経済新聞社山口支局 産経新聞山口支局 中国新聞防長本社 NHK山口放送局 KRY山口放送 t y s テレビ山口 y a b 山口朝日放送 エフエム山口
内容	山口県関連の資料を中心に、戦中・戦後の厳しい時代を生き抜いた人々が綴った手記や、その姿を記録した写真などを通し、当時の世相や苦難の多かった暮らしを紹介した。
来場者数	2,629人(約292人/1日)

3 貸出キット

貸出キットは現在、一般用2組、子ども用2組、解説グラフィックのみ4組、証言映像の貸出キットを用意して貸与の依頼に対応している。

本年度は、都道府県遺族会事務局や全国の各教育委員会、小・中学校、高等学校等にポスターとチラシを送付するなどの広報により、更なる利用を呼びかけた。

なお、平成23年度の貸出状況は、次頁の通りである。

＜貸 出 先＞

（学校） 27カ所

北海道新十津川農業高等学校／宇和島市立下灘小学校／
亀山市立神辺小学校／玉名市立小田小学校／千葉市立こてはし台小学校／
鎌ヶ谷市立五本松小学校／新宿区立西戸山小学校／琴浦町立浦安小学校／
大仙市立大沢郷小学校／市原市立水の江小学校／調布市立調和小学校／
仙台市立連坊小路小学校／綾瀬市立綾北小学校／八潮市立柳之宮小学校／
市川市立富美浜小学校／訓子府町立訓子小学校／横浜市立上川井小学校／
横浜市立権太坂小学校／鋸南町立保田小学校／横浜市立柏尾小学校／
三郷市立高州小学校／日野市立日野第七小学校／横浜市立東山田小学校／
江東区立東雲小学校／立命館宇治中学校／富田林市立明治池中学校／
日南市立東郷中学校

（地方自治体） 12カ所

越谷市（総務部総務課）／兵庫県美方郡（新温泉町役場）／
東久留米市（企画経営室総務課）／鈴鹿市（人権政策課）／
上越市（共生まちづくり課）／赤穂市（総務部総務課）／
日立市（生活環境部市民活動課）／柏原市／甲斐市／
大田区（下丸子図書館）／犬山市／柏市（協働推進課）

（一般団体） 9カ所

真泥遺族会（三重県）／株式会社ひばりプロダクション（東京都）／
愛川町遺族会（神奈川県）／財団法人沖縄県遺族連合会／
コープかながわ座間エリア会（神奈川県）／
財団法人 対馬丸記念会（沖縄県）／伊達市遺族会（北海道）／
公益社団法人信濃教育会（長野県）／
おおいたインフォメーションハウス株式会社（大分県）

4 実物資料の収集と保存

（1）実物資料の収集

平成23年度における実物資料の収集は、主に個人からの寄贈によるもの約1,700点、購入によるもの約700点であった。

実物資料の収蔵概数は次表の通りである（平成24年3月末現在）。

寄 贈 資 料	30,400点
購 入 資 料	9,900点
厚生労働省からの無償貸付資料	3,200点
合 計	43,500点

(2) 実物資料の保存と補修

平成23年度末までに収集した実物資料は、全て燻蒸処理を行い、整理、分類した上、地下1階の資料収蔵室で保管を行った。

なお、破損・汚損の激しい紙製資料等約45点に対して補修を行った。



愛 媛 展 山 口 展
巡回特別企画展

Ⅱ 図書映像資料等閲覧事業

1 図書文献関係

(1) 運用管理

① 閲覧室及び書庫の管理

4階図書室では、収集した戦中・戦後の国民生活に関する文献や戦争に関する基本図書等を閲覧に供している。

閲覧室には座席30席のほか、所蔵資料や『戦史叢書』等のデータベース及び『文藝春秋』等のデジタル情報を閲覧できる端末を4台、研究コーナーに2台設置し、タッチパネルとキーボードの両方で使えるようにしている。またCD-ROM検索用端末2台と国内の類似施設情報が見られる端末1台を設置し、来館者の利用に供している。

蔵書の中でも利用頻度が高い基本資料や総合的な内容をもつ資料を中心に開架図書とし、利用状況に応じて随時調整している。

閉架図書は4階書庫と地下書庫の2か所に分かれており、比較的利用頻度の高い資料は4階書庫で収蔵している。劣化の激しい図書資料は保管庫で別置保存している。

また、閲覧室入口付近の展示ケースでは寄贈資料の一部を随時展示し紹介している。

② レファレンス・サービス（参考調査業務）

平成23年度のレファレンス・サービスは1,169件、1日平均5件で、特に4月から10月の年度前半が多かった。

書籍の所蔵確認だけでなく、考証に関するレファレンスも多く、調査に時間を要するレファレンスが多かった。

レファレンスの内容は随時蓄積して、利用ガイドなどに反映させるよう努めている。

③ 利用ガイドの発行と資料目録の作成

レファレンスの内容に基づいて蔵書を紹介したり、利用・検索の方法を紹介する『ぶらりらいぶらりい』を毎月発行し希望者に配布している。

利用者からの要望により、戦前から戦後にかけての東京都下の経済状況を基軸に地理学的な調査分析を行った江波戸昭氏の寄贈図書の蔵書目録を作成し、閲覧に供している。

④ 展示関連図書の公開と参考図書リストの配布、読書案内

来館者が特別企画展などの展示内容についてより一層理解が深められるよう、展示内容に即した図書・雑誌を閲覧室内に展示し、気軽に手にして閲覧できるコーナーを設けている。

平成23年度は特別企画展「昭和の紙芝居～戦中・戦後の娯楽と教育」及び資料公開コーナーでの展示内容に関連した図書・雑誌の公開を行った。

また、7月20日（水）から9月11日（日）まで、小学校高学年から中学生を対象に、「夏休み宿題・研究資料リスト」を作成して希望者に配布するとともに、ホームページにも同リストを掲載し、利用の便を図った。

図書の紹介を「図書館員が読んだ本」「書評から」と題して、閲覧室内に掲示するとともに、ホームページで定期的に掲載した。

⑤ ホームページ

図書室では、所蔵する図書・雑誌のデータを毎月更新している。図書・雑誌資料の一部を紹介した「ちょこっと所蔵資料」や「ぶらりらいぶらりい」を定期的に更新しているほか、「本に関するお問い合わせ」では、利用者からのレファレンス等を随時受けつけた。また、資料募集のお知らせを掲載し、広く資料の寄贈を呼びかけている。

10月からのホームページリニューアルに伴い、蔵書検索機能の検索対象に目次を加え「ことば検索」ができるようにした。

また、利用者からのレファレンス内容をQ&A形式で公開することを始めた。

⑥ 蔵書点検

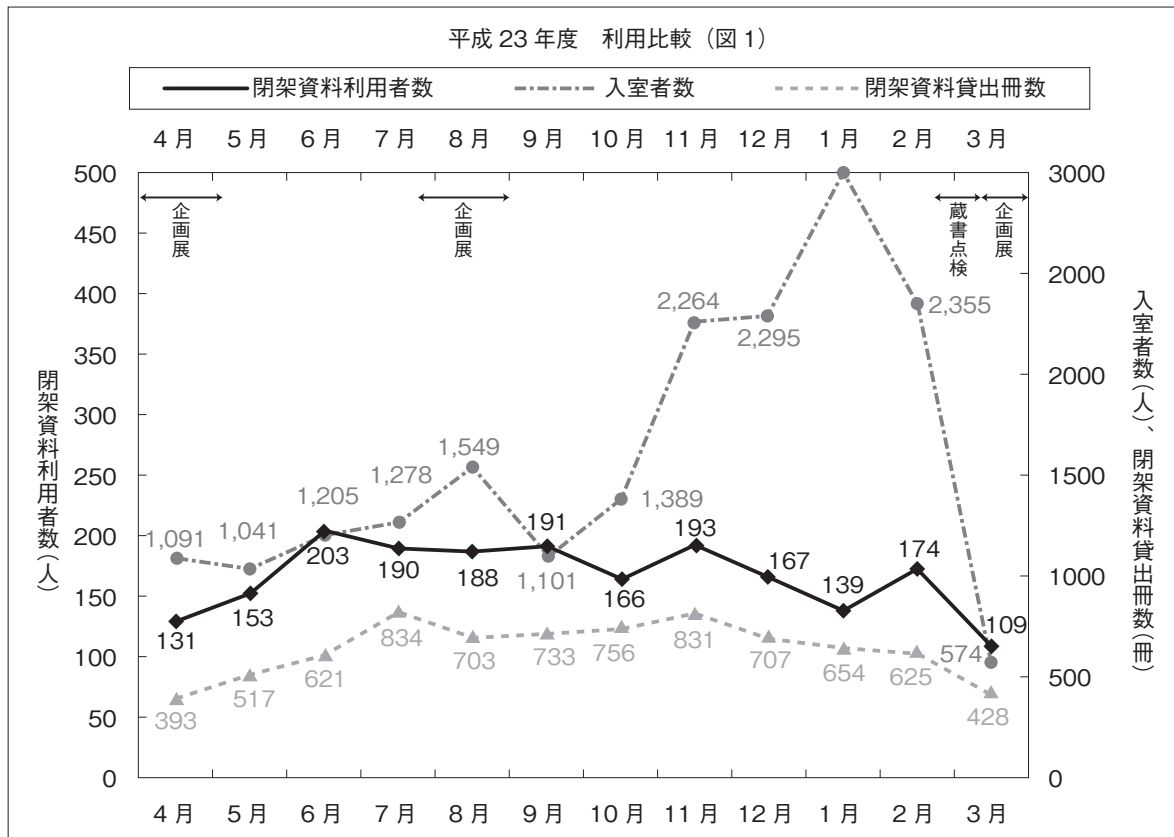
平成24年3月1日（木）から3月14日（水）までの14日間、図書室を休室にし、蔵書点検を実施した。

開架図書及び閉架雑誌を重点的に点検し、破損が著しい資料の修理や製本を行った。資料の増加に伴い、蔵書の移動も行った。

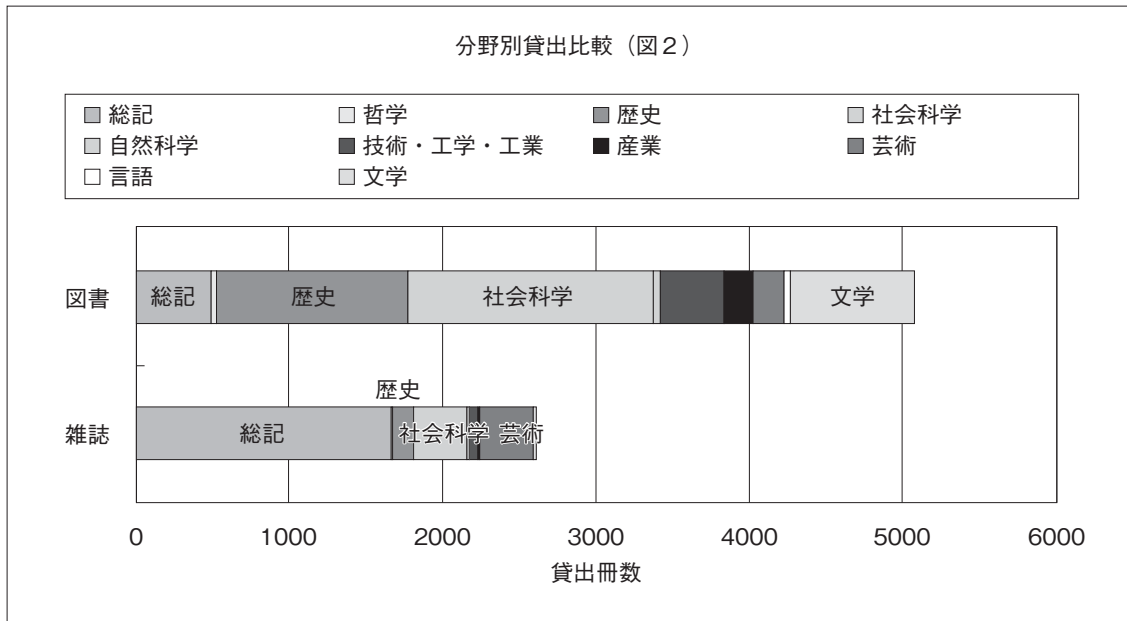
⑦ 利用状況

平成23年度の利用状況は、全体的に調査研究を目的とした利用者が増え、一人当たりの利用時間が長い傾向が続いている。

図書室入室者及び閉架利用状況(月ごとの変遷)は図1、閉架資料の分野別貸出状況は図2のとおりであった。



- ・ 図書室入室者数の1日平均は65名前後であった。
- ・ 図書室入室者数を月別で見ると、11月から2月にかけて小中学生の利用者が非常に多く、次いで夏期の特別企画展開催中の8月が多い。
- ・ 閉架資料の利用者数、利用冊数は、7月と11月が最も多く、次いで9月から10月となっている。



※雑誌における「総記」は、週刊誌及び娯楽誌など一般誌のことをいう。

- ・ 図書の利用では社会科学と歴史分野の利用が多く、次いで文学となっている。
- ・ なお、社会科学分野の内訳としては、戦争関連の基本的資料、軍事・部隊史関係に加え、戦前から戦後の教科書類の利用が多かった。
- ・ 雑誌は例年どおり「総記」の利用が目立ち、少年少女、女性向け雑誌の利用が突出して多かった。

(2) データ管理

① 収蔵図書のデータ管理

収蔵図書の書誌・所蔵データは随時点検、追加入力および修正作業を進めている。平成23年度は1,162冊の書誌データの入力と装備を行った。

② 目次データ入力

図書検索システムでは、図書の書誌・所蔵データの他に目次データも入力し、目次を含めた情報を検索対象として「ことば」検索に役立たせている。平成23年度は1,166件の目次データ入力を行った。

(3) 保存管理

資料の劣化に加え、閲覧による破損やコピー利用による破損も増えつつあり、資料を補修しつつ利用の拡大を図っていくことが今後の課題である。平成23年度は41冊の製本と90冊の破損本を修理した。劣化

が激しく合本できない雑誌については中性紙保存箱で保存している。

また、平成23年3月の東日本大震災による資料落下の状況から図書室と閉架書庫の書棚の一部（高所）には落下防止装置と耐震シートを設置した。

（4）業務研修

資料収集・整理・保存管理、情報提供など図書館を取り巻く問題は、常に変化している。図書館業界や類似施設についての状況を把握し、今後の図書室の運営に反映させていくことを目的に職員業務研修に参加した。平成23年度は、10月に日本図書館協会主催の第97回全国図書館大会（東京都調布市）などに出席して、業務の向上と情報交換に努めた。

2 映像・音響関係

5階映像・音響室では、戦中・戦後の国民生活に関する映像・音響資料等を検索端末を通じて来館者に提供している。検索端末15台を設置し、うち2台は、多人数で同時に利用が可能な団体専用ブース、1台は当館類似施設の各ウェブサイトを紹介する専用端末となっている。

上記の運用のほかに、パソコン操作が得意でない来館者も利用できることを目的に、「国民生活」「トピックス・著名人の顔」「スポーツ」「世間を騒がせた出来事」のニュース映画を簡単に閲覧できる検索コーナーやSPレコードの一部を試聴できるコーナーを設け、その順調な運用に努めている。

3 ニュースシアター

戦前から戦後のニュース映画を毎週4作品ずつ選定して毎日上映する「昭和館懐かしのニュースシアター」は、多くの来館者から好評を得ている。

平成23年度は204作品を上映した。上映が8月に500回を迎え、8月13日（土）から19日（金）まで「終戦記念日特集 ニュースシアター上映500回記念」として、終戦直後の日本の状況と終戦記念日を伝えたニュース映像を特別上映した。

4 収蔵資料

(1) 図書資料の収蔵状況

平成23年度は、前年度に引き続いて、戦中・戦後の国民生活に関する図書・雑誌をはじめ、写真集や少年少女雑誌・児童向け図書などを中心に収集した。収蔵概数は次表の通りである。(平成24年3月末現在)

国民生活関係図書	47,542冊
戦争に関する基本的図書	17,068冊
独自資料	35,980冊
その他基本図書	10,227冊
計	110,817冊

※平成23年度の主な受入資料の内訳

- | | |
|---|--------|
| ○ 国民生活関係 | 2,095冊 |
| ・ 当時刊行された雑誌類や生活体験記等
『戦時食糧増産並節米運動』『学徒動員の記』『神社の防火防空施設』
『暎の父に會って』『国民保育』等 | |
| ○ 戦争に関する基本的図書 | 867冊 |
| ・ 太平洋戦争関連の基本文献、欧米等外国の公刊戦史、部隊史、戦争関連の体験記等
『電信第三聯隊史』『陸軍成規類聚』『支那派遣軍56期生従軍記録』
『帝国陸軍 高崎連隊の近代史 昭和編』等 | |
| ○ その他 | 480冊 |
| ・ 寄贈を受けた各類似施設の刊行物等
『国立歴史民俗博物館研究報告』『東京都江戸東京博物館紀要』等 | |
| ・ 定期購読誌
『現代用語の基礎知識』『中央公論』『サライ』『暮らしの手帖』等 | |
| ・ 辞典・目録等の参考図書
『日本統計年鑑』『図書館年鑑』等 | |

(2) 映像・音響資料の収蔵状況

利用者が検索システムを利用して閲覧できる映像・音響資料の収集を進めている。収蔵数は次表の通りである。(平成24年3月末現在)

<p>○ 動画資料 (ムービー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米国資料館から入手 1,034 作品 ・米国個人から入手 33 作品 ・豪州国資料館から入手 20 作品 ・英国から入手 5 作品 ・国内で入手 2,136 作品 合計 3,228 作品 	<p>○ 終戦後、進駐軍撮影の戦後日本人の記録</p> <p>○ 戦中・戦後の記録映画</p> <p>○ 戦中・戦後のニュース映画等</p> <p>○ 戦中・戦後の映画作品</p>	<p>終戦直後の映像の中には、カラー映像が含まれており、貴重な記録となっている。情報検索システムで閲覧可能。</p>
<p>○ 静止画資料 (写真)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米国資料館から入手 5,734 枚 ・米国個人から入手 2,281 枚 ・豪州国資料館から入手 100 枚 ・英国から入手 233 枚 ・国内で入手 36,412 枚 ・除籍 (写真集などの図書への移管のため) -2,347 枚 合計 42,413 枚 	<p>○ 終戦後、進駐軍撮影の戦後日本人の記録及び日本側撮影の報道写真等</p> <p>○ 土門拳氏他の著名な写真家の作品</p> <p>○ 昭和初期から戦後まで、多数の写真を撮影した石川光陽氏の写真等</p>	<p>これらの写真も一部デジタル化し、情報検索システムで閲覧可能。順次登録作業中。</p>
<p>○ 音響資料 (SPレコード)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内で入手 7,514 枚 ・寄託資料 35,000 枚 合計 42,514 枚 	<p>○ 流行歌・演説・落語・浪曲といったあらゆる分野のレコード</p>	<p>情報検索システムで一部が鑑賞可能。順次登録作業中。</p>

※平成23度の主な受入資料の内訳

<p>○ 資料の購入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録映像 <ul style="list-style-type: none"> 米国国立公文書館記録映像 6 作品 米国議会図書館記録映像 7 作品 日本ニュース 29 作品 中日ニュース 20 作品 <p>○ 資料の寄贈</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録写真 507 枚 ・記録フィルム 14 作品 ・音響資料 (SPレコード) 1,123 枚

Ⅲ 関連情報提供事業

関連情報提供事業では、①昭和館が所蔵する図書資料、映像・音響資料、実物資料の情報、②雑誌資料等をデータベース化した情報、③昭和館類似施設（国内135カ所）の基本情報を、それぞれ来館者が端末で利用できるよう提供している。

特に図書資料については千代田区内の関連施設・大学図書館とデータベースの提携を行っており横断検索が可能である。

また、今年度10月にはホームページのリニューアルをし、各ページを見やすく、利用しやすいように全体を再構築した。

1 運用管理

(1) システム運用管理

来館者に静止画（写真）、動画、音響、CD（図書・雑誌）資料及び類似施設等の関連情報を提供している。様々な条件から来館者が資料を検索し、閲覧できる方法を採用している。

システム稼働は安定しており、ハードウェア及びデータ損傷等の大きなトラブルはなかった。

平成23年度に来館者が各データベースに、アクセスした件数をまとめたのが次表である。アクセス件数は月平均約26,000件で、多く利用されている。

	CD資料	写真	映像	音響	図書	雑誌	月別合計
平成23年4月	439	7,528	3,663	2,358	1,778	1,363	17,129
5月	420	7,924	2,697	2,610	2,476	1,182	17,309
6月	350	11,388	3,565	2,503	2,285	1,281	21,372
7月	529	14,171	4,050	2,689	2,489	2,207	26,135
8月	634	15,818	5,594	2,550	2,410	986	27,992
9月	435	13,583	5,523	3,299	2,761	1,161	26,762
10月	545	23,354	4,231	2,964	2,205	1,236	34,535
11月	977	26,083	5,055	3,672	3,350	1,168	40,305
12月	764	18,375	4,000	3,164	2,860	1,436	30,599
平成24年1月	839	20,456	4,446	3,877	3,048	1,130	33,796
2月	671	12,454	4,216	3,524	2,809	1,089	24,763
3月	504	4,528	2,078	2,183	1,151	544	10,988
合計	7,107	175,662	49,118	35,393	29,622	14,783	311,685

(2) データベース運用管理

来館者閲覧用及び記録資料のデジタル化を進め、以下のデータベースを稼働させている。

○ 収蔵図書・雑誌目次情報

収蔵図書や雑誌の書名・著者名・雑誌名等書誌情報のほか、目次を全てテキスト入力しており、「目次情報」からも検索ができるようになっている。

○ 収蔵映像・音響資料情報

収蔵している静止画(写真)、動画及び音響資料(S Pレコード)を、タイトルや作曲者名等の資料情報から検索でき、目的の映像または音楽を表示し、また視聴できるようにしている。

平成23年度は新たに昭和30年代の風景写真、船舶の写真や絵葉書、写真ニュースなどを閲覧できるようにした。S Pレコードでは、東日本大震災の被災地からのレコードを受入れ、公開をした。入手済みの米国国立公文書館の写真、映像の見直しを行い、改めて多くの資料を公開した。

○ 図書CD・雑誌CD情報

昭和館で独自に開発したデータベースで、雑誌は『中央公論』『文藝春秋』『婦人公論』『写真週報』『時事年鑑』『放送ニュース解説』『改造』がデータベース化されている。(『改造』は継続中)新システムに対応できるように開発し、新たに各雑誌の横断検索ができる機能を追加した。

○ 戦史叢書・陸海軍部隊略歴検索システム

防衛庁防衛研究所戦史室編纂の『戦史叢書』、厚生省援護局編纂の「部隊略歴簿」「艦船行動調書」等をデータベース化し、横断検索を可能にして、利用の便を高めている。

(3) ホームページ運用管理

開館時から引き続き昭和館ホームページの定期更新を行っている。本年度は10月にホームページをリニューアルし、蔵書検索機能を充実させたほか、収蔵写真や映像のサンプルを増やしたり、特別企画展をはじめとするイベント情報を見やすくするなど、大幅に改変した。

なお、平成23年度のアクセス数は次のとおりであった。

○ 「昭和館ホームページ」へのアクセスカウント

平成23年度	122,875件
平成23年度月間平均	10,239件
開館時からの累計	1,848,554件

○「キッズナビ」へのアクセスカウント

平成23年度	13,977件
平成23年度月間平均	1,164件
平成18年（導入時）からの累計	108,626件

2 オーラルヒストリーの制作

戦中から戦後にかけての労苦を体験された方々の証言を、永く後世に伝えるため、「オーラルヒストリー」の制作を昨年引き続き実施した。

平成23年度は、「戦没者への遺族の想い」を中心に、引き揚げ者・復員者の体験など、9名の証言（7作品）の収録を行った。

「おかえりなさい。お父さん」	森本浩吉さん（神奈川県在住）
「お父さんは、ここにいる」	大森陽美さん（千葉県在住）
	野々垣晶子さん（愛知県在住）
「シベリアに眠る父への想い」	鎧塚正和さん（富山県在住）
「私の歩んだ道－教員として、兵士として－」	浦山義一さん（富山県在住）
	吉村登美子さん（富山県在住）
「還らなかった夫を偲んで」	川北千代子さん（京都府在住）
「夫を待ち続けた日々」	松岡せいさん・松岡玲子さん
「いつもそばにいた父」	（京都府在住）

3 海外資料調査の実施

平成23年度には米国における調査を実施した。

国立公文書館・国立議会図書館・ルーズベルト図書館で映像や写真資料の確認を行った。公文書館では、まだ収蔵していない映像が多数あることを確認し、終戦後の映像を閲覧し、一部購入した。海兵隊や進駐軍のカメラマンが撮影した写真も数多く確認することができ、今後購入に向けて検討していく予定である。議会図書館では戦前の「朝日世界ニュース」の当館での欠号分を購入した。ルーズベルト図書館でも日本関係の写真約260枚を所蔵していることが確認でき、今後入手を検討していきたい。

IV 啓発広報等事業

1 広報活動

(1) 広報資料の作成及び発送

平成23年度は、都道府県、政令指定都市、中核市、東京特別区、全国の市町村役場、教育委員会、小・中学校、高等学校、都道府県遺族会、都道府県老人クラブ連合会、観光旅行者、類似施設等に対し、ポスター、チラシ及びパンフレット等を発送し、昭和館の事業内容の周知を図った。

また、昭和館の活動を、学校等に随時伝えるため、広報誌「昭和館だより」を、6月、1月に1都22県の小・中学校及び1都1道22県の高等学校等へ発送した。

(2) 広報資料の掲示及び掲載

当館の事業内容のPR及び特別企画展の案内を行うため、都営新宿線、東京メトロ半蔵門線、同東西線の車内に、窓上ポスターを掲示した。また、九段下駅の駅ホーム（東西線と都営新宿線）に電飾掲示板と4番出口付近にポスターを掲示した。新聞広告等については、朝日、毎日、産経、東京の各新聞及びフリーペーパー「東京メトロ沿線だより」等に掲載した。なお、新宿線駅ホームの電飾掲示板は3月31日付で掲出を停止した。新年度からは駅構内の別の場所に電飾掲示板を掲出する。

その他にも、巡回特別企画展の際には、地方新聞に広告を掲載、ローカル放送にてスポットCMを放送した。

(3) 子ども霞ヶ関見学デー

文部科学省主催で開催している「子ども霞ヶ関見学デー」の厚生労働省会場に社会・援護局の「66年前の夏を体験してみよう」とのタイトルで、昭和館及びしょうけい館が出張展示を行った。昭和館では「貸出キット」及び雑誌資料・音響資料等を出展した。

- ・開催期間 平成23年8月17日（水）～18日（木）
- ・会場 厚生労働省 仮設会議室「1会議室」
- ・来場者数 746人

(4) 第10回昭和館見学作文コンクール

昭和館を見学した小中学生及び巡回特別企画展を見学した小中学生を対象に、「第10回昭和館見学作文コンクール」を実施した。10校の小学校6年生と1校の中学3年生、個人4名（小3、小6）の合計347作品の応募があった。

審査の結果、埼玉県越谷市立宮本小学校6年生の柳澤夏綺さんの作品が厚生労働大臣賞に（作文は別掲）、東京都足立区立湊江小学校6年生の外岡奨悟さんの作品が昭和館館長賞に選ばれた。

(5) 第4回昭和館高校生ポスターコンクール

高校生を対象に、昭和館に対する周知と理解を広め、多くの方の来館及びホーム・ページの閲覧を得ることを目的として「第4回昭和館高校生ポスターコンクール」を実施した。全国の高等学校にチラシを発送する等して募集したところ、合計213作品の応募があった。

審査の結果、富山県富山第一高等学校高村佳苗さんの作品が、最優秀賞に（作品は別掲）、優秀賞に8作品（作品は別掲）、佳作に25作品が選ばれた。



作文コンクール



ポスターコンクール

2 『昭和のくらし研究』の刊行

昭和館の設立趣旨である「戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世に伝える」事業の一環として、紀要『昭和のくらし研究』第10号を平成24年3月に刊行した。（平成14年度から年1回刊行）

目次は次頁の通りである。

『昭和のくらし研究』第10号 目次

目 次

戦時下における紙芝居文化—大衆文化の受容と統制—

……………明治大学大学院文学研究科史学専攻 吉 葉 愛

資料紹介 石川光陽筆『大東亜戦争と空襲日記』（4・終）

……………昭和館図書情報部 松 尾 公 就

C I E 映画とそのアーカイブ化—作品例、その流通、アーカイブ化

……………東京大学大学院学術支援専門員 山 内 隆 治

昭和館学芸部における「昭和館実物資料管理システム」

を用いた資料管理方法について……………昭和館学芸部 財 満 幸 恵



昭和のくらし研究第10号

3 展示資料の貸出

○「震災と復興—丸の内・防災都市のあゆみ—」（三菱一号館美術館）

- ・ 開催期間 平成23年6月14日～9月19日
- ・ 会 場 三菱一号館美術館歴史資料室
- ・ 貸出資料 音源1点

○「都市文化の成立と帝国劇場展」（三菱一号館美術館）

- ・ 開催期間 平成23年10月13日～平成24年1月13日
- ・ 会 場 三菱一号館美術館歴史資料室
- ・ 貸出資料 音源1点

上記のほか、テレビ・ラジオ番組、教科書副読本、雑誌など製作のための貸出を行った。

4 昭和館運営有識者会議の開催

昭和館の運営について、幅広い視野からの意見を得ながら、公正かつ中立的な運営を確保するため、平成15年4月から厚生労働省社会・援護局に「昭和館運営有識者会議」を設置し、これまでに11回にわたり委員会を開催し、昭和館運営事業の計画概要の意見交換を行っている。

昭和館運営有識者会議委員会 委員名簿

(平成24年3月31日現在。順不同・敬称略)

委員長	坂 卷 熙	(淑徳大学名誉教授)
委員	佐 藤 俊 一	(豊島区立千川中学校教諭)
〃	波 田 野 澄 雄	(筑波大学附属図書館長)
〃	南 砂	(読売新聞社編成局編集委員)
〃	岸 本 葉 子	(エッセイスト)
〃	池 田 維	(財団法人交流協会顧問)
〃	國 松 善 次	(財団法人滋賀県遺族会顧問)
〃	多 田 宏	(社団法人シルバーサービス振興会理事長)

5 昭和館運営専門委員会の開催

昭和館の事業計画の策定、事業の運営等に当たっては、開館以来「昭和館運営専門委員会」を年2回開催し、同委員会の意見を踏まえ、事業の充実推進を図っている。なお、3月31日付けで下記の名簿にある久保田、清水、仁科の3氏は、退任した。

昭和館運営専門委員会 委員名簿

(平成24年3月31日現在。50音順、敬称略)

委員長	宮 脇 岑 生	(元国立国会図書館副館長)
委員	赤 木 完 爾	(慶應義塾大学教授)
〃	加 納 正 弘	(元厚生省大臣官房審議官)
〃	北 原 進	(立正大学名誉教授)
〃	久保田 福 美	(全国小学校社会科研究協議会会長)
〃	清 水 勲	(帝京平成大学教授)
〃	鈴 木 淳	(東京大学准教授)
〃	仁 科 又 亮	(元東京工芸大学大学院教授)

6 インターンシップ

飯田橋公共職業安定所（ハローワーク飯田橋）からの依頼により、高校生の職業意識の形成を目的とする「ジュニア・インターンシップ（就業体験）」を実施し、7月26日（火）～29日（金）まで、神田女学園高等学校（東京都千代田区）の生徒3名、8月23日（火）～26日（金）

まで、東洋高等学校（東京都千代田区）の生徒2名、2月14日（火）～17日（金）まで、東京都立八丈高等学校（東京都八丈町）の生徒1名を受け入れ、職員の指導の下、当館の業務を体験させた。

7 小・中学生用展示案内DVD、ビデオの配布

小・中学生等の社会科見学及び修学旅行等の機会を捉え、来館促進を一層図るため、当館の事業内容を分かりやすく説明した展示案内DVD、ビデオを見学予定の希望校に配布しており、児童・生徒の皆さんに来館前に予備知識をつけていただいている。



展示案内DVD



展示案内ビデオ

V 特別企画展等の開催及び概要

昭和館では、多岐にわたる「戦中・戦後の国民生活上の労苦」を後世に伝えるため、常設展示とは違った視点や内容で、特別企画展等を開催している。

1 特別企画展

「戦後復興までの道のり～配給制度と人々の暮らし～」

昭和12年(1937)、日中戦争が始まると政府は戦争遂行のため、「モノとカネ」に対して統制を行い、企業は自由な生産販売や価格の設定も制限された。さらに戦争の長期化に伴い、人々の消費に対しても統制が行われ、配給切符・通帳を持たずに物品を購入することができなかった。

戦争が終わっても、さらに苦しい生活が続き、配給は遅配や欠配が続き、非合法的な買い出しや闇市で、法外な値段で生活必需品を入手するしかなかった。しかし、22年から順次統制が撤廃され、31年の『経済白書』では「もはや戦後ではない」と記され、その後日本は驚異的な復興をとげたのである。

本展では、実物資料・写真・手記などにより、戦争による物資不足のなか、どのような工夫により暮らしをやりくりしたか、また終戦直後の混乱期を生きぬき、いかに復興をなしえたかを紹介した。

開催期間：平成23年7月23日(土)～8月28日(日)

会場：3階 特別企画展会場

展示構成

- I 統制のはじまり
- II 物資不足による耐乏生活
 - 1 配給制度の実施
 - 2 我慢と工夫の日々
 - 3 破たんした日常生活
- III 混乱の回復
 - 1 終戦直後の混乱
 - 2 困窮者に対する新たな制度と国際援助
- IV 経済の復活

来場者数：7,603人
(約230人/1日)



イベント

1 戦中・戦後の体験を伝える会

期 日：平成23年8月7日（日）14：00～16：00

会 場：1階昭和館懐かしのニュースシアター会場

参加者数：63人

2 展示解説

期 日：平成23年7月30日（土）・8月20日（土）

14：00～14：45

会 場：3階特別企画展会場

参加者数：82人

2 特別企画展「昭和の紙芝居～戦中・戦後の娯楽と教育～」

昭和5年（1930）頃、飴などを売ることで商売する街頭紙芝居が始まり、「黄金バット」や「少年タイガー」などの娯楽作品の人気とともに全国に広がった。一方、街頭紙芝居の作品の低俗性を憂い、キリスト教や仏教の布教や、教育にも紙芝居が導入された。13年、日本教育紙芝居協会が設立されると、積極的に国策紙芝居が印刷紙芝居として出版されるようになり、印刷紙芝居は大量に作られ、全国の学校や隣組の常会などで子どものみならず大人にまで利用されるようになった。

戦時中も検閲を受けていた紙芝居は、終戦を迎えても、日本での紙芝居というメディアの重要性がGHQ（連合軍総司令部）により指摘され、検閲が行われるようになった。そのようななか、戦争とともに姿を消していた街頭紙芝居はいち早く復活し、戦前以上の人気を博するようになった。しかし、街頭紙芝居は、一点物の手書きの紙芝居を配給する制度が負担となり、その後、テレビの登場とともに次第に姿を消していった。

本展示では、昭和館が所蔵する500巻以上の資料を中心に、娯楽のみならず教育・国策にも利用された紙芝居について、紙芝居の誕生から最盛期と衰退、さらに現在に至る紙芝居の新たな展開までを概観し、今もなお魅力を失わない紙芝居の世界を紹介した。

開催期間：平成24年3月17日（土）～5月13日（日）

会場：3階特別企画展会場

展示内容

プロローグ 黄金バット・アラカルト

I 戦中の紙芝居

- 1 街頭紙芝居のはじまり
- 2 街頭紙芝居の人気
- 3 レコード紙芝居
- 4 教育紙芝居の登場
- 5 国策紙芝居

II 戦後の紙芝居

- 1 紙芝居の検閲と審査
- 2 街頭紙芝居の復活と衰退
- 3 紙芝居の現在

III いろいろな紙芝居

- 1 街頭紙芝居
- 2 印刷紙芝居

来場者数：27,400人（約548人／1日）

イベント

- 1 「紙芝居 アラカルト」様々なテーマで紙芝居を上演していただいた。

期 日：平成24年3月25日（日）教育紙芝居（子どもの文化研究所他）
4月 8日（日）街頭紙芝居（永田為春他）
4月15日（日）街頭紙芝居（三邑会他）
4月22日（日）現代の紙芝居（ネオ紙芝居・倉嶋らむね他）
5月 6日（日）国策紙芝居（梅田佳声他）

時 間：1回目13:00～、2回目14:00～

会 場：1階昭和館懐かしのニュースシアター会場

参加者数：総数1,237人

- 2 花見イベント

期 日：平成23年3月31日（土）、4月1日（日）11:00～15:00

会 場：2階広場

- ① 遊びイベント（輪投げ・剣玉・お手玉・あやとり・双六）
- ② 針金細工実演
- ③ 大道芸（南京玉すだれ、バナナのたたき売りなど）
- ④ 紙芝居（梅田佳声）

参加者数：総数1,108人



3 展示解説

担当者による、展示解説を行う。

期 日：4月14日（土）、4月28日（土）

会 場：3階特別企画展会場

参加者数：総数57人

3 「昭和の日」記念イベントの開催

「昭和の日（4月29日）」を中心として、記念イベントを開催した。

1 「ニュース映画にみる昭和21年の戦後『復興』と疎開児童」の特別上映

開催期間：平成23年4月23日（土）～5月6日（金）

会 場：1階昭和館懐かしのニュースシアター会場

来場者数：3,695人

2 「常設展示室」の無料入場

期 日：昭和の日の4月29日（金）

来場者数：239人

4 石川光陽写真展

「警視庁カメラマンが撮った昭和モダンの情景」

（東京ステーションギャラリーと共催）

開催期間：平成22年12月7日（火）～平成23年7月18日（月）

会 場：旧新橋停車場鉄道歴史展示室

展示内容：昭和館所蔵の9,600点あまりの光陽作品の中から、戦前の生き生きした昭和の情景を映し出す写真約80点を厳選して、同時代の実物資料とともに展示した。

来場者数：22,599人

（約124人/1日）



5 写真展

「写真にみる50年前の日本～よみがえる昭和の情景～」

開催期間：平成23年11月12日（土）～平成24年1月22日（日）

会場：2階広場

展示内容：撮影者の太田峻三氏は、昭和36年頃から日本各地の名所や旧跡、駅舎や乗り物などをカメラにおさめ続けた。展示では50年前の昭和36・37年に撮影された275枚の写真の中から41枚を展示した。

来場者数：16,621人
(約302人/1日)



6 写真展

「絵はがきと写真にみる桜～東京の桜の名所～」

開催期間：平成24年3月17日（土）～4月15日（日）

会場：2階広場

展示内容：九段界限をはじめとする東京の桜の名所と桜まつりを楽しむ人びとの様子を昭和初期の絵はがきと写真をとおして紹介した。

来場者数：12,273人
(約472人/1日)



7 紙芝居定期上演会

平成24年3月より開催の特別企画展「昭和の紙芝居～戦中・戦後の娯楽

と教育～」に向け、当館が収集した紙芝居を紙芝居師の梅田佳声氏ほかが演じる会を開催した。上演会は平成22年6月より毎月第4日曜日に開催し、その模様はVTRに記録され、特別企画展の展示資料として活用する予定である。

なお、平成23年度の紙芝居定期上演会の入場者は、862人であった。

8 資料公開コーナー

昭和館が収蔵する映像資料・写真資料（5階）・図書資料（4階）を多くの来館者に利用していただくきっかけになることを目的に、1階ロビーの一角にコーナーを設けて、資料を随時公開している。

平成23年度に紹介した資料の各テーマと期間は、以下の通りである。

回数	テーマ	期間
第30回	見て聴いて楽しいSPレコード	平成23年 2月22日(火) ～ 4月10日(日)
第31回	戦後の選挙	平成23年 4月19日(火) ～ 6月19日(日)
第32回	空襲による被災と復興	平成23年 6月21日(火) ～ 8月7日(日)
第33回	第3回「昭和館高校生ポスターコンクール」入賞作品展示	平成23年 8月9日(火) ～ 9月4日(日)
第34回	終戦直後の地震・津波・台風被災	平成23年 9月6日(火) ～ 10月30日(日)
第35回	すすむ日本の戦後の復興	平成23年 11月1日(火) ～ 12月27日(火)
第36回	婦人雑誌の付録ー女性のたしなみと生活ー	平成24年 1月5日(木) ～ 3月4日(日)
第37回	大震災で被災したSPレコード	平成24年 3月6日(火) ～ 5月6日(日)

注：回数は平成19年度に公開を開始以来の通算回数

参 考

1 平成23年度利用者実績

(単位：人)

	常設 展示室	映像・ 音響室	図書室	特別 企画展	ニュース シアター	合計	備 考
平成23年 4月	636	1,325	1,091	8,786	10,371	22,209	12/7～ 3/19～ 4/24 写真展期間 特別企画展期間 紙芝居定期上演会
5月	2,676	1,312	1,041	5,509	6,190	16,728	12/7～ 5/22 写真展期間 特別企画展期間 紙芝居定期上演会
6月	2,892	1,583	1,161	2,331	5,631	13,598	12/7～ 6/26 写真展期間 紙芝居定期上演会
7月	3,088	1,503	1,278	2,908	6,183	14,960	7/23～ 7/24 写真展期間 特別企画展期間 紙芝居定期上演会
8月	5,320	2,157	1,549	6,257	11,493	26,776	～ 8/28 特別企画展期間 紙芝居定期上演会
9月	3,069	1,468	1,101	70	5,778	11,486	9/25 紙芝居定期上演会
10月	4,273	2,131	1,389	7,611	6,575	21,979	10/8 10/22 10/23 ～10/16 巡回特別企画展期間 ～10/30 巡回特別企画展期間 紙芝居定期上演会
11月	7,551	4,412	2,264	6,285	9,403	29,915	11/12～ 11/27 写真展期間 紙芝居定期上演会
12月	7,390	4,040	2,296	6,390	7,348	27,464	11/12～ 12/25 写真展期間 紙芝居定期上演会
平成24年 1月	6,181	3,716	3,009	4,182	6,397	23,485	～ 1/22 写真展期間 紙芝居定期上演会
2月	6,964	3,976	2,355	80	7,272	20,647	2/26 紙芝居定期上演会
3月	2,457	787	596	4,884	6,348	15,072	3/17～ 3/17～ 写真展期間 特別企画展期間
合計	52,497	28,410	19,130	55,293	88,989	244,319	

2 平成23年度常設展示室入場者数

総 数	区 分	種 別	人 数	割合 (%)
52,497人	有料 47,629人	小・中学生	24,067人	45.8
		高・大学生	3,347人	6.4
		一 般	20,215人	38.5
	無料 4,868人	小・中学生 (親子割引)	717人	1.4
		視察者等	2,758人	5.3
		心身障害者	1,058人	2.0
		未就学児	335人	0.6

(参考) 団体またはグループによる来館学校数

総 数	区 分	学校数	割合 (%)
532校	小学校	321校	60.3
	中学校	113校	21.2
	高 校	33校	6.2
	専門学校	16校	3.0
	大 学	49校	9.2

3 来館団体御芳名

(敬称略)

月 日	団 体 名	人 数	月 日	団 体 名	人 数
4月28日	神奈川県立川崎北高等学校2年生	144名	12月 7日	松戸市立松飛台小学校6年生	112名
5月27日	埼玉県立三郷北高等学校2年生	140名	12月 7日	越谷市立花田小学校6年生	139名
5月27日	板橋区立志村第三中学校3年生	141名	12月 9日	中央区立佃中学校2年生	119名
6月 2日	共立女子中学高等学校1年生	111名	12月 9日	板橋区立西赤塚小学校6年生	112名
6月10日	春日部市立武里南小学校6年生	118名	12月10日	クラーク記念国際高等学校	157名
6月23日	江戸川区立二之江第二小学校4年生	103名	12月13日	板橋区立金沢小学校6年生	105名
7月 3日	厩橋簿記講習会	108名	12月13日	練馬区立大泉第二小学校6年生	165名
7月 7日	足立区立中島根小学校6年生	100名	12月14日	練馬区立豊玉小学校6年生	108名
7月12日	足立区立古千谷小学校6年生	116名	12月15日	江戸川区立南葛西第三小学校6年生	113名
8月14日	福岡県全国戦没者追悼式参列遺族代表団	101名	12月20日	草加市立八幡小学校6年生	160名
8月15日	京都府全国戦没者追悼式参列遺族団	149名	12月20日	練馬区立光が丘四季の香小学校6年生	107名
9月 7日	練馬区立開進第二中学校1年生	148名	1月11日	木更津市立木更津第二小学校6年生	112名
9月 8日	大田区立蒲田小学校6年生	108名	1月13日	袖ヶ浦市立長浦小学校6年生	101名
9月15日	自由ヶ丘学園高等学校2年生	206名	1月13日	府中市立四谷小学校6年生	112名
10月 7日	葛飾区立本田中学校2年生	151名	1月17日	東久留米市立第九小学校6年生	108名
10月 7日	松戸市立上本郷小学校6年生	144名	1月18日	越谷市立城ノ上小学校6年生	124名
10月19日	大磯町立国府中学校6年生	122名	1月24日	府中市立若松小学校6年生	126名
10月28日	桶川市立桶川西小学校6年生	126名	1月24日	江東区立第二砂町小学校6年生	114名
11月 1日	長野県富士見高等学校2年生	101名	1月25日	八潮市立大原小学校6年生	105名
11月 4日	川崎市立日吉小学校6年生	135名	1月26日	川崎市立栗木台小学校6年生	153名
11月 9日	富士宮市立大宮小学校6年生	106名	1月27日	草加市立新里小学校6年生	149名
11月15日	相模原市立横山小学校6年生	110名	1月31日	江東区立枝川小学校6年生	106名
11月17日	桐蔭学園小学部6年生	125名	2月 2日	大田区立大森東中学校1年生	121名
11月18日	さいたま市立仲本小学校6年生	116名	2月 7日	袖ヶ浦市立昭和小学校6年生	126名
11月18日	国分寺市立第三小学校6年生	126名	2月 7日	市川市立宮久保小学校6年生	144名
11月18日	小山市立間々田小学校6年生	133名	2月 8日	川口市立差間小学校6年生	142名
11月18日	江戸川区立瑞江小学校6年生	102名	2月10日	船橋市立二宮小学校6年生	116名
11月18日	越谷市立宮本小学校6年生	139名	2月10日	調布市立第一小学校6年生	105名
11月22日	江戸川区立第三松江小学校6年生	103名	2月14日	さいたま市立仲町小学校6年生	147名
11月22日	渋谷区立西原小学校6年生	100名	2月14日	町田市立小川小学校6年生	135名
11月22日	小金井市立小金井第一小学校6年生	144名	2月14日	日野市立日野第六小学校6年生	144名
11月22日	三郷市立丹後小学校6年生	104名	2月15日	横浜市立末吉小学校6年生	141名
11月24日	江戸川区立東小松川小学校6年生	119名	2月16日	三鷹市立中原小学校6年生	101名
11月24日	世田谷区立芦花小学校6年生	111名	2月16日	川崎市立東生田小学校6年生	107名
11月24日	御殿場市立原里小学校6年生	101名	2月16日	横浜市立新吉田小学校6年生	123名
11月25日	調布市立調布第三小学校6年生	115名	2月17日	市川市立行徳小学校6年生	160名
11月25日	桶川市立桶川東小学校6年生	125名	2月17日	川崎市立稲田小学校6年生	160名
11月25日	墨田区立押上小学校6年生	108名	2月22日	江戸川区立小松川第二小学校6年生	149名
11月30日	佐倉市立上志津小学校6年生	100名	2月23日	横浜市立別所小学校6年生	117名
11月30日	三芳町立三芳小学校6年生	109名	2月24日	八千代市立村山小学校6年生	159名
12月 1日	港区立港南小学校6年生	106名	3月 2日	品川区立日野学園小学校6年生	110名
12月 2日	江戸川区立篠崎小学校6年生	131名	3月 4日	萩原あきひろ後援会	171名
12月 6日	稲城市立稲城第一小学校6年生	101名	3月 7日	吉川市立関小学校6年生	110名

※紙面の都合により、100名以上で来館した団体のみを掲載しております。

4 第10回昭和館見学作文コンクール・厚生労働大臣賞受賞作品

「昭和館に行ってきた事！」

埼玉県越谷市立宮本小学校 6年 柳澤 夏綺

私は、昭和館という場所があるとは知りませんでした。でも、私は、映画で楽しそうに暮らしている昭和の世界を見た事があるので、そういうのがかざってあるのかな？とっていました。昭和館の中のところどころに資料みたいのが置いてあって、それを見ていたらびっくりすることがいっぱいありました。その中でも、私が一番びっくりしたのが、「煙をくゆらす戦災孤児」という記事でした。私は、国語の時間に、戦争孤児というのを、調べていたので、コレを見て、おどろきをおさめませんでした。私が思っていた昭和の世界の他に、こんな暮らしをしている子もいるんだと、あらためて気づかされました。映像も見ました。そこに映っていた人は、栄養がとれず、ガリガリにやせた人でした。私は、それを見て、自分がどんなに、幸せな暮らしができていたことを、また気づかされました。うれしいニュースもありました。それは、「学校給食が再開」されるという記事でした。そこに写っている子どもたちは、みんな笑顔で、パンを上に上げていて、とてもうれしそうです。他に、実物もかざってあって、昭和の人はよく考えたなーと思ったのは、ランドセルです。ランドセルのかわりに、竹？草？みたいので作られた実物そっくりのランドセルがありました。本当に昭和の人は、すごいと思いました。あと記事に、こんなことが書かれてありました。

「学校に通う子どもたちの栄養状態はよくなかった。」

これを見て、映像で見た人の状態を思いうかべました。でも、読んでいくと、「戦争の影響で低下していた子どもたちの体位は、27年頃には14年頃の水準に戻り、その後は年を追うごとに身長・体重ともに上昇していった。」と書かれていました。とても安心しました。昭和は、私の父、母、祖父、祖母などが生きていた世界だったので、みんながこんな生活をしていただんだなあと思いました。私は、昭和館にあって、いろんなことをきづくことができました。

5 第4回昭和館高校生ポスターコンクール入賞作品の紹介 <入賞作品（優秀賞以上）>



最優秀賞
富山第一高等学校
高村佳苗
「家族団欒」



優秀賞
静岡県立浜松江之島高等学校
石岡里実
「昭和にあったかっこいいもの」



優秀賞
静岡県立浜松江之島高等学校
上木舞花
「何にでも夢中だったあの頃」



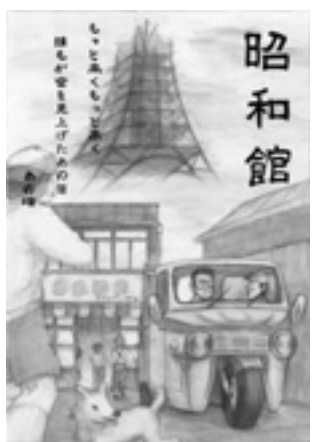
優秀賞
日本大学三島高等学校
林七海
「昭和の家中」



優秀賞
岐阜県立多治見工業高等学校
加藤拓哉
「昭和の乗物」



優秀賞
香川県立香川中央高等学校
森夕希子
「台所」



優秀賞
創成館高等学校
岩松賢太郎
「昭和の風景」



優秀賞
宮崎県立佐土原高等学校
田中佑実
「昭和の家族愛」



優秀賞
宮崎県立佐土原高等学校
萩原唯加
「おばあちゃんの写真」

6 施設概要

設立趣旨

昭和館は、戦没者遺族に対する援護施策の一環として、戦没者遺族をはじめとする国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦に係る歴史的資料・情報を収集、保存、展示し、後世代の人々にその労苦を知る機会を提供することを目的として設立された。

具体的には、当時の国民生活の姿を伝える実物資料の展示事業、図書・文献及び映像・音響資料の閲覧事業並びに内外の資料館の概要等に関する関連情報提供事業等の諸事業を進めることにより、戦中・戦後の国民生活上の労苦を様々な視点から総合的に伝えていくこととしている。

昭和館建設の経緯

昭和54年に、財団法人日本遺族会から、戦没者遺児への慰藉のため、「戦没者遺児記念館（仮称）」を建設して欲しいという要望が、当時の橋本厚生大臣に提出された。

これを契機として、戦後に生まれた世代が国民の過半数を占め、今日の繁栄の礎となった戦没者の遺族をはじめとする国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世代に伝えることを目的に、戦没者遺族に対する援護施策の一環として、各界有識者の参加のもと、「戦没者遺児記念館（仮称）」建設の検討が進められた。

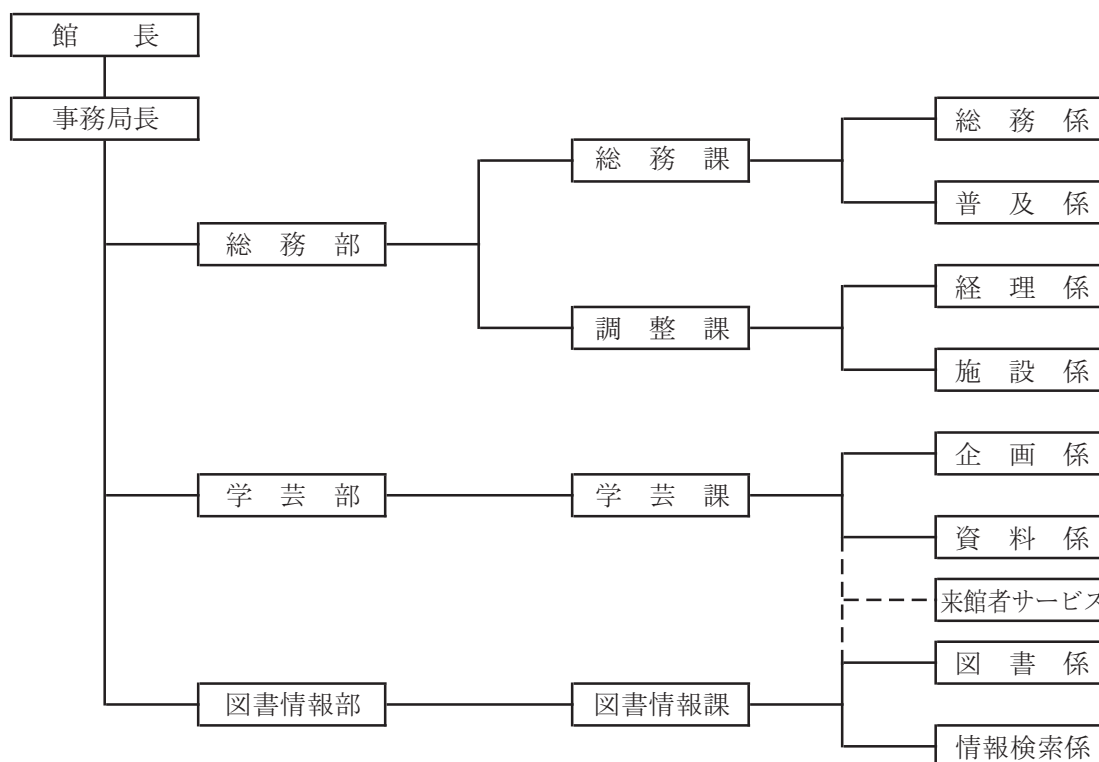
平成5年に、「戦没者追悼平和祈念館（仮称）」として厚生省（当時）予算に建設費が計上された。その後、民間等からさまざまなご意見をいただき、平成10年12月末に竣工した。館の名称は、「昭和館」とされ、平成11年3月末に開館した。

なお、財団法人日本遺族会が厚生労働省から委託を受け、館の運営に当たっている。

施 設

面 積	敷地面積	2,138㎡			
	延床面積	8,514.11㎡			
構造種別	S造（鉄骨造）一部SRC造（鉄骨鉄筋コンクリート造）				
階数	床面積（㎡）	主な用途	収容人員（人）	避難施設	備 考
R階	206.04	機械室		避難階段	
7階	792.05	常設展示室（入口）	135	避難階段	戦中の国民生活
6階	795.37	常設展示室（出口）	142	避難階段	戦後の国民生活
5階	797.61	映像・音響室	63	避難階段	情報検索
4階	798.03	図書室 書庫	52	避難階段	図書閲覧 図書収蔵庫
3階	799.6	研修室・会議室	120	避難階段	特別企画展時は会場に使用
2階	718.61	広場		避難階	（臨時出入口）
1階	1288.42	資料公開コーナー エントランスロビー ニュースシアター 受付・総合案内・事務室	69 34	避難階	昭和館出入口
B1階	1011.42	資料収蔵庫 防災センター 機械式駐車場		避難階段	実物・図書資料収蔵（低温管理）
B2階	1306.96	機械室 機械式駐車場		避難階段	
合計	8514.11		615		

組 織



7 平成23年度寄贈者御芳名

本年度に、資料をご寄贈くださいました方のお名前を記して御礼といたします。

実物資料寄贈者

[団体]

都道府県	寄贈者名
東京都	利根会

実物資料寄贈者

[個人]

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
東京都	池田和生
〃	石黒裕朗
〃	井上明
〃	大久保治雄
〃	大野淳子
〃	小川久道
〃	鹿島敏男
〃	川口實
〃	北原進
〃	小島政治
〃	塩川貴美子
〃	杉谷一子
〃	高橋透
〃	高橋保子
〃	田口美枝子
〃	露木実
〃	寺田格郎
〃	寺田近雄
〃	中島和夫
〃	中山裕
〃	西吉孝
〃	林重之
〃	比留間とし子
〃	廣本寛子
〃	古屋好以
〃	持田晃
〃	安岡由佳里
神奈川県	伊勢信子
〃	工藤貞子
〃	田村英彰

都道府県	寄贈者名
神奈川県	角井桂子
〃	成田史代
〃	林玲子
〃	平山由美子
〃	藤田寛
〃	藤田友枝
〃	堀幸夫
〃	柳生悦子
〃	山口正雄
〃	吉田太郎
千葉県	荒井久雄
〃	稲葉正央
〃	川田久仁子
〃	高田誠二
〃	西川武雄
〃	渡邊モト
埼玉県	弘中愛訓
〃	本多和子
〃	本間久江
〃	矢島文雄
京都府	加納慶
兵庫県	定本寿美
岡山県	羽根岡伝治
山口県	湊典子
〃	村田文男
愛媛県	中矢幸子
福岡県	品川洋子
長崎県	竹藤道子
アメリカ	江村かおる

図書資料寄贈者

[団体]

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
北海道	北海道開拓の村
〃	札幌市文化資料室
青森県	青森県近代文学館
〃	青森県立郷土館
岩手県	盛岡市先人記念館
宮城県	仙台市歴史民俗資料館
〃	東北歴史博物館
秋田県	秋田県立博物館
〃	日本ラジオ歌謡研究会
山形県	伴淳の会
〃	米沢市上杉博物館
福島県	いわき市立美術館
〃	福島県立博物館
〃	福島県歴史資料館
茨城県	茨城県立歴史館
栃木県	栃木県立しもつけ風土記の丘資料館
〃	栃木県立なす風土記の丘資料館
〃	國學院大學栃木短期大学史学会
埼玉県	埼玉県平和資料館
〃	川越市立博物館
〃	東松山市遺族会
〃	日本大学広報部大学史編纂課
〃	武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会
〃	蕨市立歴史民俗資料館
千葉県	印西市教育委員会教育部
〃	鎌ヶ谷市郷土資料館
〃	国立歴史民俗博物館
〃	女性の日記から学ぶ会
〃	松戸市教育委員会
〃	城西国際大学水田美術館
〃	野田市郷土博物館
東京都	株式会社吉川弘文館
〃	株式会社文藝春秋
〃	家具の博物館
〃	海原会
〃	吉田秀雄記念事業財団
〃	古賀政男音楽文化振興財団 古賀政男音楽博物館
〃	水交会
〃	政治経済研究所 東京大空襲・戦災資料センター
〃	中国残留孤児援護基金
〃	東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館
〃	日本海事科学振興財団 船の科学館
〃	野球体育博物館
〃	偕行社
〃	日本ユネスコ協会連盟 世界遺産・国際教育グループ
〃	日本郷友連盟

都道府県	寄贈者名
東京都	J C I I フォトサロン
〃	NHK放送博物館
〃	お札と切手の博物館
〃	株式会社アートコミュニケーション
〃	くもん出版
〃	しょうけい館
〃	すみだ郷土文化資料館
〃	たばこと塩の博物館
〃	わだつみのこえ記念館
〃	英霊にこたえる会中央本部
〃	海軍兵学校第75期会事務局
〃	紀伊国屋書店
〃	宮内庁書陵部
〃	玉川大学教育博物館
〃	金井書店
〃	軍恩連盟全国協議会
〃	港区立港郷土資料館
〃	荒川ふるさと文化館
〃	国立教育政策研究所社会教育実践研究センター
〃	多摩市文化振興財団 パルテノン多摩
〃	東京都人権啓発センター
〃	衆議院憲政記念館
〃	出光美術館
〃	昭和女子大学光葉博物館
〃	秦川堂書店
〃	杉並区立郷土博物館
〃	世田谷区立郷土資料館
〃	千代田区立千代田図書館
〃	千代田区立日比谷図書館文化館 文化財事務室
〃	全国疎開学童連絡協議会
〃	総務省大臣官房総務課管理室
〃	台東区立下町風俗資料館
〃	中央史学会
〃	町田市立自由民権資料館
〃	通信総合博物館
〃	電子会
〃	東京家政学院生活文化博物館
〃	東京古典会
〃	東京都三多摩公立博物館協議会
〃	東京都写真美術館
〃	東京都図書館協会
〃	東京都博物館協議会
〃	東村山ふるさと歴史館
〃	J Y M A 日本青年遺骨収集団
〃	日本カメラ博物館
〃	板橋区教育委員会生涯学習課文化財係

都道府県	寄贈者名
東京都	板橋区立郷土資料館
〃	福生市教育委員会事務局 生涯学習推進課文化財係
〃	福生市総務部総務課
〃	物流博物館
〃	文化環境研究所
〃	文京ふるさと歴史館
〃	豊島区立郷土資料館
〃	防衛省防衛研究所戦史研究センター史料室
〃	北区教育委員会生涯学習推進課
〃	北区飛鳥山博物館
〃	満鉄会
〃	民音音楽博物館（民主音楽協会）
〃	明治大学博物館
〃	目黒区めぐろ歴史資料館
〃	靖國神社社務所
〃	有限会社 ネオ・ムーヴ
〃	利根会
〃	練馬区立石神井公園ふるさと文化館
〃	國學院大学大学院日本史学専攻大学院
〃	國學院大學研究開発推進機構学術資料館神道資料館部門
神奈川県	馬事文化財団 馬の博物館
〃	JICA海外移住資料館
〃	横須賀市総務部総務課
〃	横浜みなと博物館
〃	横浜市史資料室
〃	横浜都市発展記念館
〃	神奈川県遺族会
〃	小田原市郷土文化館
〃	小田原城天守閣
〃	神奈川近代文学館
〃	神奈川県立歴史博物館
〃	専修大学教育学会社会科学研究会
〃	川崎市市民ミュージアム
〃	大磯町郷土資料館
〃	藤沢市文書館
〃	日本郵船歴史博物館
新潟県	新潟市歴史博物館
富山県	富山市郷土博物館
石川県	金沢大学歴史言語文化学系
〃	石川県立美術館
〃	石川県立歴史博物館
福井県	福井県立若狭歴史民俗資料館
〃	福井県立歴史博物館
長野県	株式会社 一兔舎
〃	旧制高等学校記念館
〃	松本市立博物館
〃	飯田市美術博物館
静岡県	沼津市歴史民俗資料館
〃	焼津市歴史民俗資料館

都道府県	寄贈者名
静岡県	島田市博物館
〃	浜松市博物館
愛知県	愛知県陶磁資料館
〃	安城市歴史博物館
〃	瀬戸蔵ミュージアム
〃	半田市立博物館
〃	名古屋市博物館
京都府	NPO法人 舞鶴・引揚語りの会
〃	京都国立博物館
〃	戦友会研究会
〃	立命館大学国際平和ミュージアム
〃	龍谷大学戦没者調査室
大阪府	往生院民具供養館
〃	大阪歴史博物館
兵庫県	温故会
〃	神戸女子大学史学会
〃	西宮市立郷土資料館
〃	赤穂市立歴史博物館
〃	明石市立文化博物館
和歌山県	和歌山県立紀伊風土記の丘
〃	和歌山市教育委員会
〃	和歌山市立博物館
鳥取県	鳥取市歴史博物館 やまびこ館
岡山県	岡山市デジタルミュージアム
〃	津山郷土博物館
広島県	広島平和文化センター
〃	呉市海事歴史科学館
〃	広島県立歴史博物館
〃	日本はきもの博物館・日本玩具博物館
山口県	下関市立考古博物館
〃	周南市美術博物館
香川県	高松市市民文化センター平和記念室
愛媛県	愛媛ビルマ会
〃	愛媛県歴史文化博物館
〃	坂の上の雲ミュージアム
高知県	土佐山内家宝物資料館
〃	高知市立自由民権記念館
福岡県	福岡市総合図書館文学・文書課
〃	福岡市博物館
〃	北九州市立自然史・歴史博物館
佐賀県	佐賀県立佐賀城本丸歴史館
〃	有田町歴史民俗資料館
大分県	大分市歴史資料館
宮崎県	みやざき歴史文化館
鹿児島県	鹿児島県歴史資料センター 黎明館
〃	尚古集成館
沖縄県	海洋博覧会記念公園管理財団
〃	ひめゆり平和祈念資料館
〃	沖縄県平和祈念資料館

図書資料寄贈者

[個人]

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
秋田県	小林良弘
山形県	東海林至之
福島県	山ノ井健次郎
埼玉県	石川周子
〃	弘中愛訓
〃	堀江公代
〃	矢島文雄
千葉県	川田久仁子
〃	小長谷宏道
〃	竹本雅昭
〃	戸高一成
〃	仁科又亮
〃	林和也
〃	袋良子
〃	山下茂穂
東京都	阿部明子
〃	飯島昭
〃	池田和生
〃	石黒裕朗
〃	石野正明
〃	伊室一義
〃	牛田守彦
〃	太田駿三

都道府県	寄贈者名
東京都	大野淳子
〃	奥田四郎
〃	桂川恵子
〃	川口実
〃	倉谷弘男
〃	甲賀友章
〃	小島貞男
〃	志賀曜子
〃	小山内和郎
〃	高野久枝
〃	舘野安佐
〃	寺田格郎
〃	寺田近雄
〃	西吉孝
〃	羽田裕子
〃	廣本寛子
〃	古屋好以
〃	宮下夏生
〃	本木 敕
〃	森田裕一
〃	安岡由佳梨
〃	山川浩二

都道府県	寄贈者名
東京都	吉房正隆
神奈川県	井上 弘
〃	大石規子
〃	工藤貞子
〃	佐々木寛
〃	佐野和子
〃	常田直樹
〃	角井桂子
〃	中村光夫
〃	堀 幸夫
愛知県	原田正恒
京都府	糸井史子
〃	川北千代子
大阪府	近藤宣章
〃	重松正一
兵庫県	内野順子
広島県	平野正文
香川県	糸山東一
福岡県	久保田千穂
〃	品川洋子
〃	添田裕吉
長崎県	竹藤道子

映像・音響資料寄贈者

[個人]

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
岩手県	菅原宏一
宮城県	佐藤昌孝
埼玉県	本間久江
千葉県	高瀬京子
〃	山本由美子
東京都	石川令子
〃	石黒裕朗

都道府県	寄贈者名
東京都	遠藤恵美子
〃	柏崎千賀子
〃	木島薫子
〃	志賀曜子
〃	清水要一
〃	円谷洋一
〃	寺田格郎

都道府県	寄贈者名
東京都	西巻一弘
〃	蓮田宣夫
〃	比留間登志子
〃	廣本寛子
〃	安岡由佳梨
神奈川県	斎藤萬里
ホースラリア	岡かよ子

昭和館館報 第13号 (平成23年度)

平成24年10月発行

編集発行

昭和館

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1

電話 03 (3222) 2577